

浮かんできたのではなく、海が下がって顔を出す、美しい白/Oahu

(別名7つの聖なる池)がそれ。棚田状に水が流れ落ちる、とても美しい滝。滝と滝の間には池があり、そこで泳いだり、滝に打たれたりして遊ぶことができる。そんな体験型の滝が何故、「聖なる池」？ その理由は昔ここが、ハワイアン達がみそぎをするためにわざわざやってきたという、神聖な滝だったから。

訪れた者の心を純白にする、そんな尊い滝であったということを知れば、一度心を洗いに出かけてみますか？

## 伝説の白

はかないハワイの白。砕ける波もまた、一瞬にして消えてしまうはかない白。そんな波の代表は、憧れのビッグウェーブ。オアフのノースエリアや、マウイのホオキバに行けば「いつでも見られるんでしょ」と思っている人もいますように、それは無理。雪や雨と同じで、波も

また、お天気次第。

ハワイに大波がやってくるのは、冬。日本に低気圧が張り出し、冷え込めば冷え込むほど(つまり強い冬型の気圧配置になればなるほど)、波は大きくなって、海を越えハワイにやってくる……と、そういう仕組みになっている。

冬のハワイで、「今年の日本は暖冬だろ？」と、サーファーたちがこちらの事情を良く知っているのは、大波を待ち焦がれている彼らは常に日本の気圧配置をチェックしているから、とそういうわけ。

やってくる大波の中、最大級なのが「ジョーズ」と呼ばれる伝説の大波。10年に一度やってくるかどうかといわれる、大波。だから映像でしか見たことがないのだけど、波は感情をもった生き物のよう。怒りで荒れ狂っているかのようにも見えた。怒りの大波は、湾に近づくと浜からの風と向き合うことになって、波が高け

れば高いほど、波が風を受ける面積は広くなり、やがて風を巻き込み、波は粉々に砕けて……。その瞬間に「海色」から「白色」へと姿を変える。そんな荒々しい白は、恐怖の白。

海には優しい白だってちゃんとある。オアフ島カネオへのサンドバー。それまで海面だった場所に、徐々に姿を現す砂州の穏やかな白。しかし、ここの白も、その姿を現すかどうかは、料理じゃないけど、潮(塩)加減次第。砂州が姿を現すのは干潮と満潮のバランスがうまくいったとき。干潮のタイミングにより、それまで海しかなかった場所に、まるで「白色」が隆起してきたかのように、だんだんと広がっていく。

どうしてここで、こんな現象が起こっているのか？ それは、沖合いの白いバリアリーフ(珊瑚礁)が、何万年もの間に波で砕かれ、白いサラサラの砂状に変化。それが海流により入り江へと運ばれる途中、流れの関係で、何箇所

かに堆積。その結果、このような美しい砂州を作った、というわけ。リーフと波と風、これらの微妙な関係がなければ、いくつもの偶然が重ならなければ、出会うことはなかった海の白。

そんな白い砂の上に満月の夜に連れて行ってくれるツアーがある。文字通り周りを海に囲まれ、チャボチャボとさざ波の音をBGMに、夜空の星を眺めたら、どんなふうに見えるんだろう？ 太平洋で一番宇宙に近い雪と雲の白から見る星と、海の上の砂州の白から見る星。見え方はどう違うのだろうか？

潤れて終わる白。砕けて終わる白。少しだけ姿を現す白。融けて流れてしまう白。ハワイの白は自然の中ではなく、そして深く散る。

それって何かに似ている？ そう、日本における桜のようでもあり。ハワイの白と日本の桜。どちらも瞬間的美しさだからこそ、人の心を捉えるのに違いない。